

平成28年度 基盤研究（S） 審査結果の所見

研究課題名	固体電気化学プロセスから発現する新しいエネルギーおよび情報変換
研究代表者	阿波賀 邦夫（名古屋大学・大学院理学研究科・教授） ※平成28年6月末現在
研究期間	平成28年度～平成32年度
審査結果の所見	<p>本研究は、これまでに系統的には掘り下げられてこなかった分子物性科学と固体電気化学とをつなぐ、新分野を大きく飛躍させる高い水準の提案であると評価される。強構造分子は比較的長いサイクル寿命を有し、2次電池研究には対応可能であろうと思われるが、本質的にはこの耐久性の問題がつきまとうであろう。これに対して、交流発電を行う電気2重層光電セルの研究は、この問題をクリアーできる可能性を秘めており、深く掘り下げる価値は高い。実験は、パルスレーザー光によるデータの取得に頼らないレベルで行うべきであり、照射光強度に対して規格化された出力をプロットすべきであろう。</p> <p>本研究は、この新しい分野を正しく牽引し、多くの研究者を引きつける新しい結果を生み出すと予想され、基盤研究（S）として採択すべき課題であると判断した。</p>